



タチカンツバキ [立ち寒椿] (カンツバキ)

常緑 / 中高木 / 木本植物 / 園芸品種



科名 ツバキ科 (APGⅢ)

特記 生長：やや遅い

八重咲きの美しい花を12月から翌年2月の花の少ない時期に咲かせる。カンツバキから作出されたとされ、サザンカのように背丈が高くなる園芸品種。サザンカに比べ、葉張りが出やすいため、公共工事などでは、本来、種が異なるがサザンカとして利用されることが多い。



Memo

カンツバキは、枝が横に張る低木のシシガシラと、枝が立ち上がるタチカンツバキに大別される。

お手入れカレンダー	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
花 期		■											■
果 実										■			
紅 葉													
施 肥		■								■			
剪 定					■								

(花後早めに) ★★★★★

★：花芽分化の時期（分化後に剪定すると花付が少なくなる）

好みの環境			
日当り	陽	○	○
土 壤	乾		○
寒 さ	強	○	
暑 さ	強	○	
潮 風	強	○	

観賞ポイント	姿	花	葉	紅葉	黄葉	実	香
		○					

ポイント

比較的浅根性（根の張り方が浅い）のため、根元が乾燥すると衰弱するのでマルチング材などで覆うと良い。早咲き品種は10月頃から、遅咲きは3月頃に開花する。

剪 定

萌芽力があり剪定に耐えるので、生垣、添景、刈り込みなど利用範囲は広い。夏には翌年の花芽が形成されるので、剪定は梅雨前がよい。風通しの確保がポイント。

病虫害

チャドクガが発生するため敬遠されやすいが、発生初期の幼虫は日中、葉の裏側に隊列を組んでいるので、比較的除去しやすい。他にはカイガラムシ。病害ではもち病になることがある。